

5.3.2 前事業の鳥類及び海棲哺乳類の調査

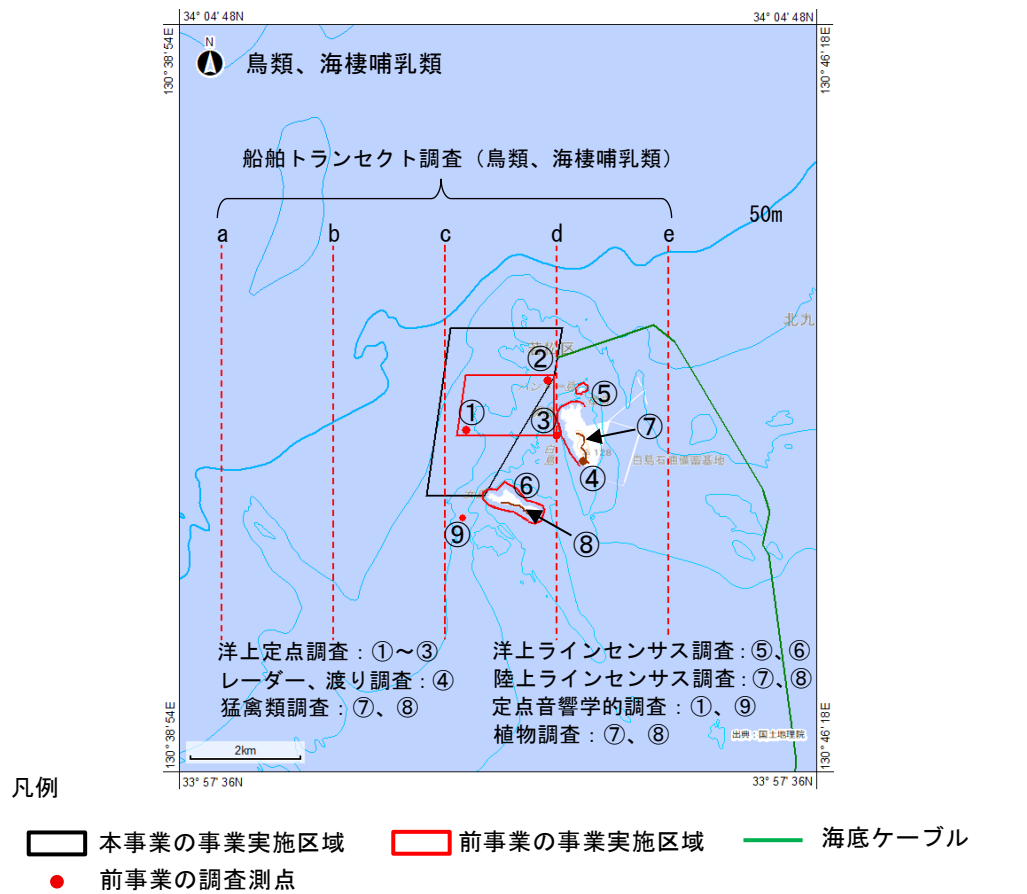


図 5.3-5 前事業の調査範囲と本事業の事業実施区域の位置関係 (2/4)

表 5.3-11 前事業の現地調査データを用いる妥当性について (2/4)

調査項目	妥当性について
鳥類	<ul style="list-style-type: none"> 船舶トランセクト調査：測線 a～e により、事業実施区域を含む広範囲において観測が実施されている。 洋上定点調査：測点①～③により、事業実施区域を含む周辺海域が観測されている。 レーダー、渡り調査：レーダーでは測点④を起点に事業実施区域を含む半径約 4 km の範囲が観測されている。渡り調査では、白島上空及び周辺を通過する渡り鳥が観測されている。 洋上ラインセンサス調査：測線⑤及び⑥により、主に洋上から白島周辺における鳥類が観測されている。 陸上ラインセンサス調査：測線⑦及び⑧により、主に白島島内における鳥類の生息状況について観測されている。 猛禽類調査：測線⑦及び⑧により、主に白島を中心に猛禽類について観測されている。 植物調査：測線⑦及び⑧により、白島島内の植生状況について観測されている。 <p>以上から、これらの調査結果は、事業実施区域及びその周辺の鳥類の生息状況を反映しているものと考えられる。</p>
海棲哺乳類	<ul style="list-style-type: none"> 船舶トランセクト調査：測線 a～e により、事業実施区域を含む広範囲において観測が実施されている。 定点音響学的調査：測点①はスナメリの生息水深（約 50m 以浅）にあり、事業実施区域のほぼ中央に位置していることから、同区域におけるスナメリの状況を代表すると考えられる。なお、測点⑨は事業実施区域の外側に位置しているが、これらのデータを利用することで、スナメリの行動傾向や分布状況を広範囲に把握できると考えられる。

※表中の「事業実施区域」は本事業の事業実施区域を示す。

(1) 鳥類

船舶トランセクト調査の結果として、測線別の鳥類の個体数を図 5.3-6 に示す。測線 a～e により、事業実施区域を含む広範囲における鳥類の観測が実施されている。オオミズナギドリは、冬季（2 月）の調査を除いて、事業実施区域の西側において分布が確認されている。

洋上定点調査の結果として、高度 M（前事業の風車のブレード回転域：35m 以上 176m 未満）における飛翔図を図 5.3-7～図 5.3-8 に示す。測点①～③により、事業実施区域を含む海域における鳥類の飛翔状況が確認されている。オオミズナギドリは、冬季を除いて、白島（男島）近傍において帰島・出島する際の飛翔状況が確認されている。

レーダー調査の結果として、飛翔軌跡図を図 5.3-9～図 5.3-10 に示す。白島近傍で飛翔軌跡が多く見られるが、5 月の観測では、北西方向に約 4 km 先まで移動した軌跡が確認されている。

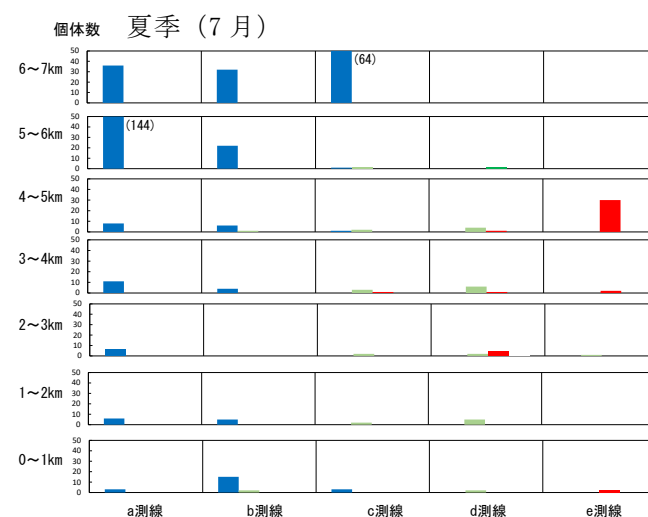
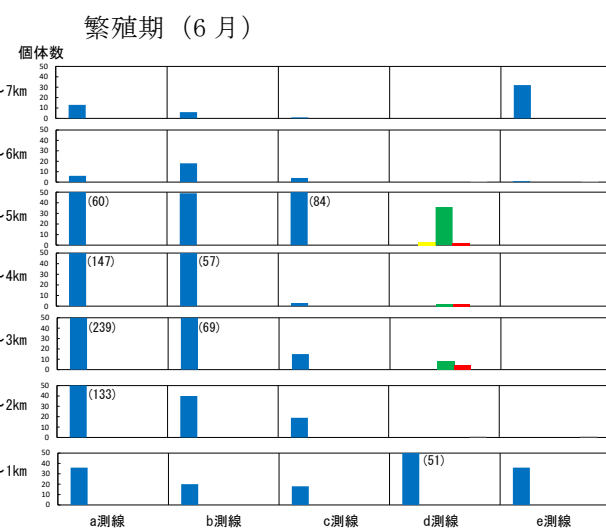
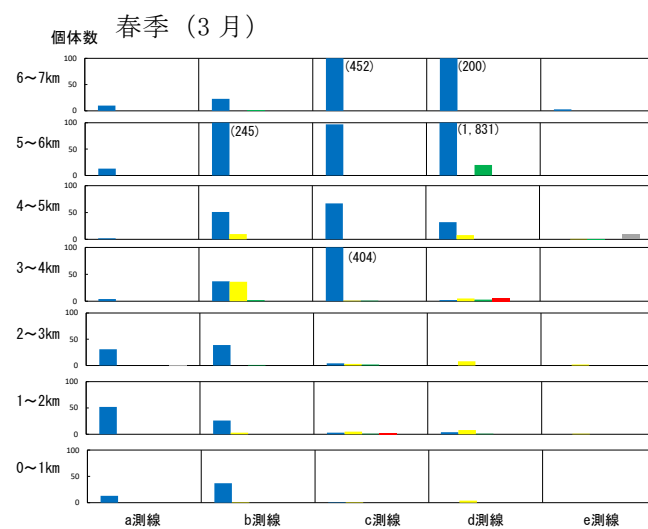
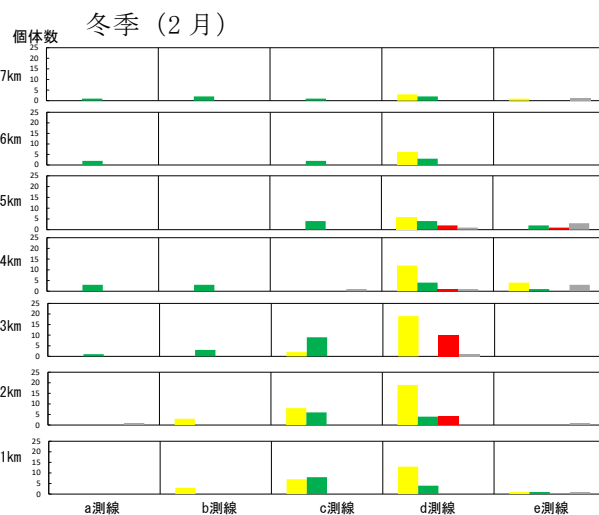
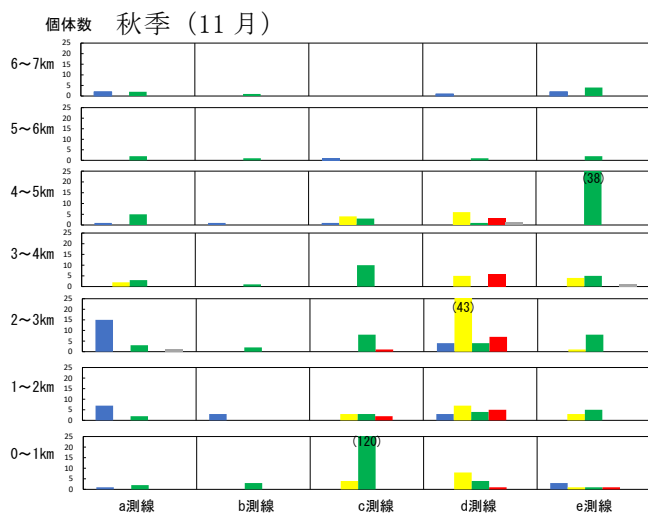
渡り鳥調査の結果として、渡り鳥を含む鳥類の飛翔図及び出現種・出現個体数をそれぞれ図 5.3-11 及び表 5.3-12 に示す。主に白島上空において飛翔が確認され、出現種は 6 目 10 科 11 種であり、そのうち渡り鳥としての重要種は、ハチクマ及びハイタカの 2 種であった。

洋上ラインセンサス調査の結果として、鳥類の出現種及び出現個体数を表 5.3-13 に示す。白島の男島及び女島の周囲における調査では、9 目 11 科 17 種の鳥類が確認され、重要種はヒメウ、クロサギ、ミサゴ及びハヤブサの 4 種であった。

陸上ラインセンサス調査の結果として、鳥類の出現種及び出現個体数を表 5.3-14～表 5.3-15 に示す。白島島内における調査では、12 目 25 科 49 種の鳥類が観測され、重要種はカンムリカイツブリ、カラスバト、ヒメウ、ミサゴ及びハヤブサ等の 11 種であった。

猛禽類調査の結果として、ミサゴの飛翔状況を図 5.3-12～図 5.3-13 に示す。ミサゴは、4 月及び 6 月に白島の男島と女島の間において、比較的多くの飛翔分布が確認されている。

植物調査の結果として、白島の男島及び女島において合計 31 目 47 科 84 種の植物が確認された。特に、男島の尾根部の樹林では、クスノキ科のタブノキといった常緑高木が多く、これらはオオミズナギドリ等が島への出入りする際に利用されているものと考えられる。



※図中（ ）内の数字は個体数

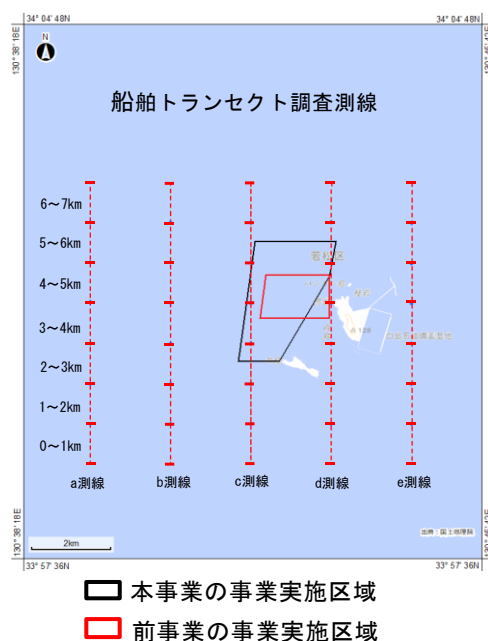
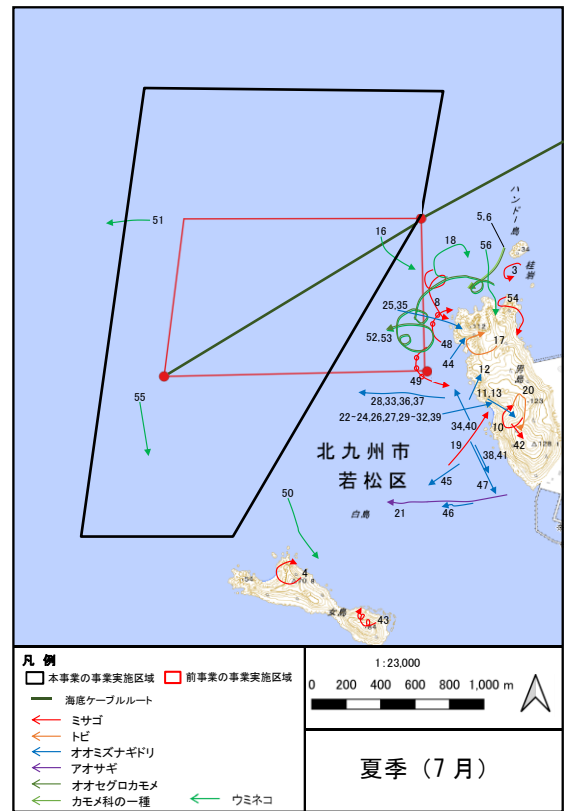
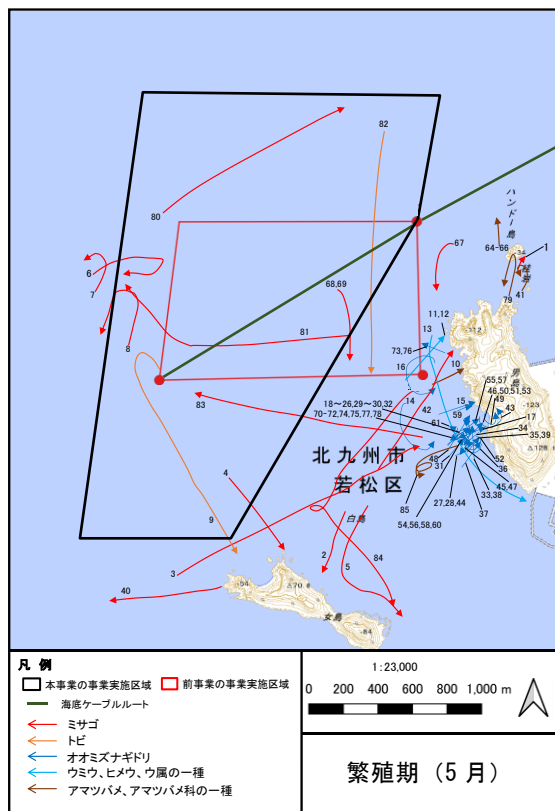
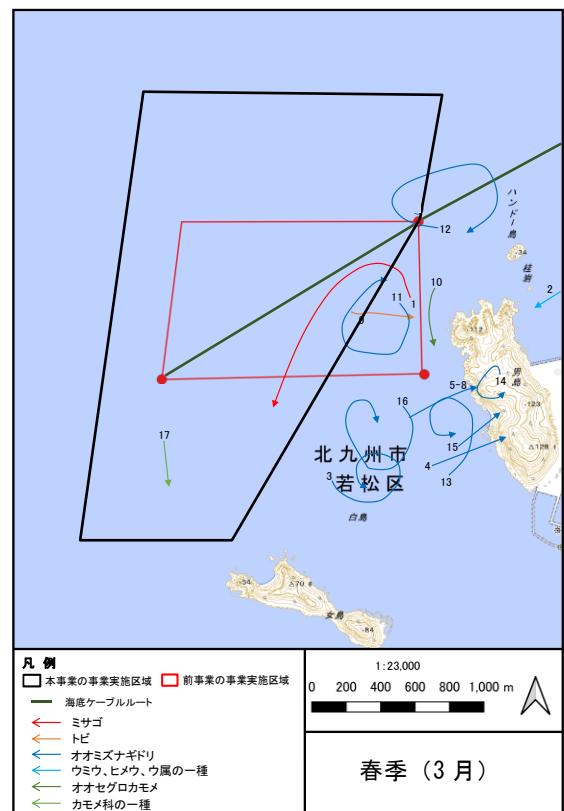
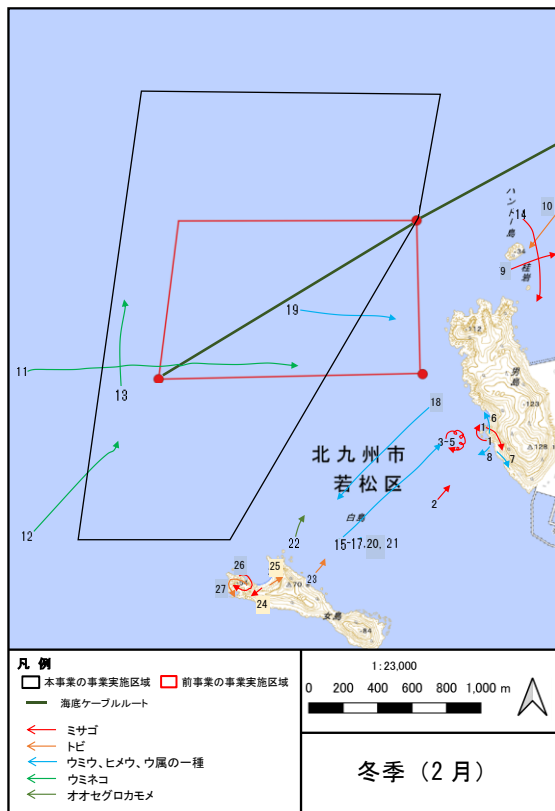
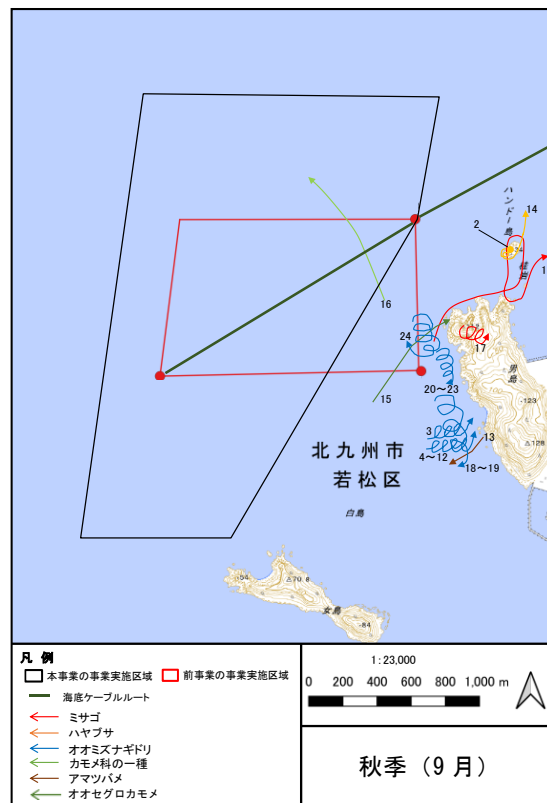


図 5.3-6 船舶トランセクト調査の結果



※図中の数字は飛翔記録の番号を示す（個体数ではない）。高度 M：前事業の風車のブレード回転域（35m 以上 176m 未満）

図 5.3-7 洋上定点調査の結果 (1/2)
高度 M における鳥類の飛翔図 (冬季、春季、繁殖期、夏季)



※図中の数字は飛翔記録の番号を示す（個体数ではない）。
高度 M：前事業の風車のブレード回転域（35m 以上 176m 未満）

図 5.3-8 洋上定点調査の結果（2/2）
高度 M における鳥類の飛翔図（秋季）

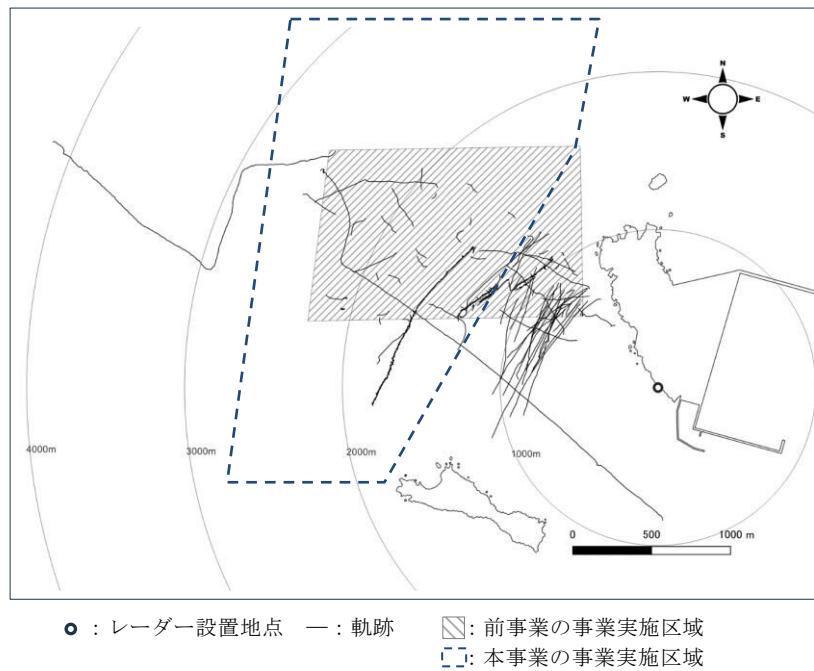


図 5.3-9 レーダーの飛翔軌跡図の結果（春季：5月）

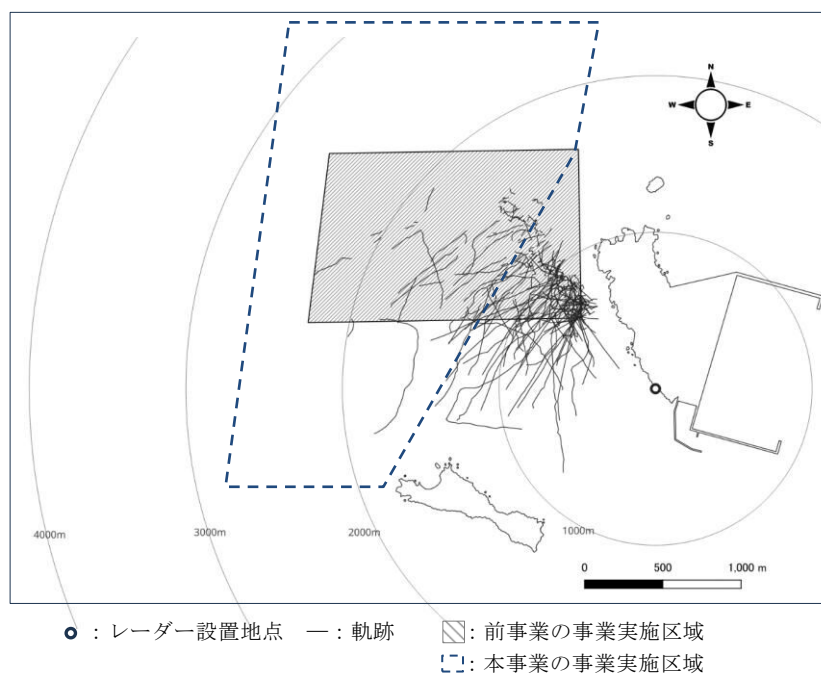


図 5.3-10 レーダーの飛翔軌跡図の結果（秋季：9月）

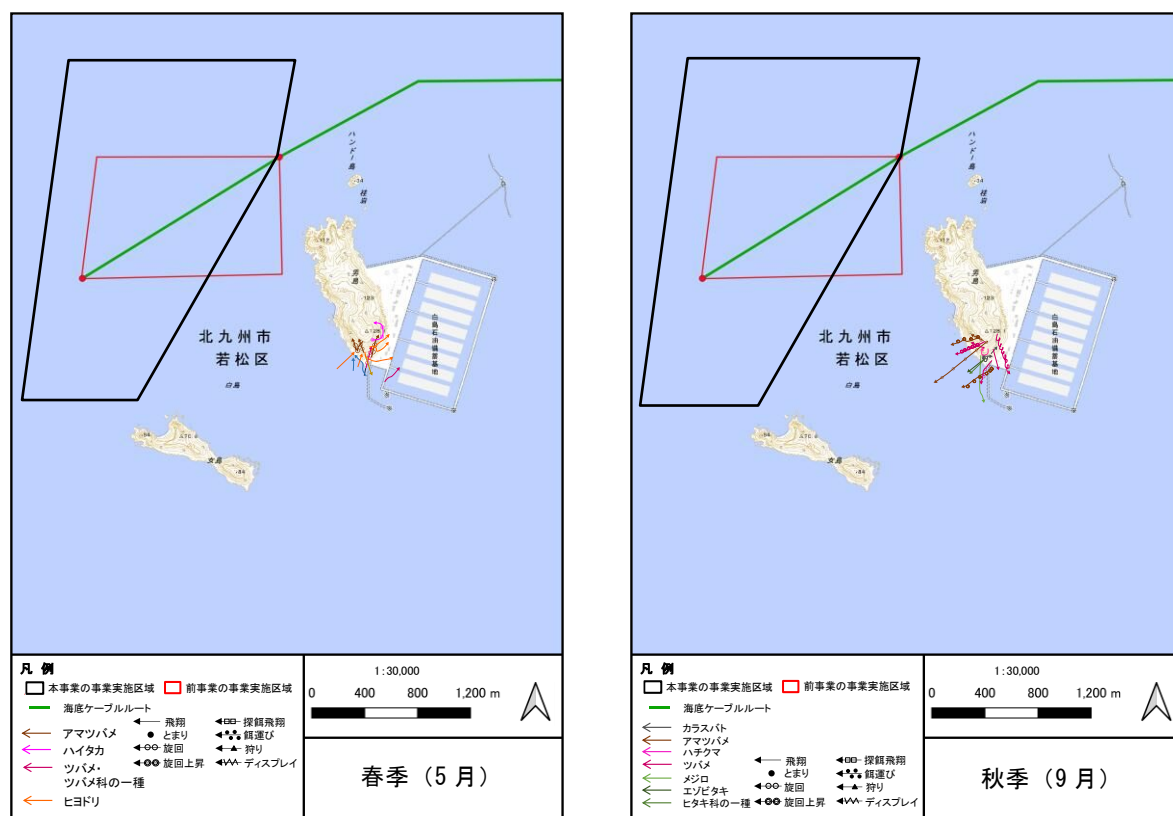


図 5.3-11 渡り鳥調査における飛翔図（春季：5月、秋季：9月）

表 5.3-12 渡り鳥調査の結果

目	科	種	渡り	春季（5月）		秋季（9月）			重要な種
				5月11日	5月12日	9月17日	9月18日	9月19日	
ハト	ハト	カラスバト				3	2	1	●
アマツバメ	アマツバメ	アマツバメ	○	11			55	8	
		アマツバメ科の一種	○	5			8	40	
チドリ	シギ	シギ科の一種	○		14				
タカ	ミサゴ	ミサゴ		19	33	8	12	14	●
	タカ	ハチクマ	○					1	●
		ハイタカ	○	1					●
ハヤブサ	ハヤブサ	ハヤブサ		2	3	2	2	4	●
スズメ	ツバメ	ツバメ	○					57	
		ツバメ科の一種	○	1	6		7	15	
	ヒヨドリ	ヒヨドリ	○	79	94				
	メジロ	メジロ	○				16		
	ヒタキ	エゾヒタキ	○				3		
		ヒタキ科の一種	○				10		
6 目	10 科	11 種	8 種	6 種	5 種	3 種	7 種	6 種	5 種

注 1) 種名は「日本鳥類目録 改訂第 7 版」（日本鳥学会 平成 24 年）に準拠した。

注 2) 「～の一種」については、同一の分類群に属する種が確認されている場合には種数に計上しない。

表 5.3-13 洋上ラインセンサス調査結果

目	科	種	繁殖期				秋季				重要な種
			4月28日		5月2日		9月13日		9月14日		
			男島	女島	男島	女島	男島	女島	男島	女島	
カモ	カモ	カルガモ				7					
ミズナギドリ	ミズナギドリ	オオミズナギドリ							2	4	
カツオドリ	ウ	ヒメウ		4		4					●
		カワウ						2			
		ウミウ	1	49	10	27				3	
		ウ属の一種							1		
ペリカン	サギ	アオサギ							1		
		クロサギ	3						1	1	●
アマツバメ	アマツバメ	アマツバメ			53						
チドリ	カモメ	ウミネコ					16	3	16	6	
タカ	ミサゴ	ミサゴ		1	2	6	1		5	6	●
		トビ				5	1	1	2		
		ハイタカ	1								
ハヤブサ	ハヤブサ	ハヤブサ			1					●	
スズメ	カラス	ハシボソガラス							1	2	
		ハシブトガラス			3						
	ツバメ	ツバメ			2						
	ヒタキ	イソヒヨドリ	1		1	1		1	2	1	
9目	11科	17種	4種	3種	7種	6種	3種	4種	9種	7種	4種

注 1) 種名は「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(日本鳥学会 平成 24 年)に準拠した。

注 2) 「～科」については、同一の分類群に属する種が確認されている場合には種数に計上しない。